

## 授業改善推進プラン < 数 学 科 >

### ( 数 学 ) 科における令和4年度授業改善推進プランの検証

#### 取り組みにおける成果と課題

定期的な小テストや単元ごとの確認テスト、週末課題などの定着により学力の基礎基本がはかれているように思える。

どの領域においても概ね目標値と同程度以上の正答率を残すことができた。しかし、1, 年では「数と式」領域、3年では「証明」で目標値を下回り、課題が残った。

### ( 数 学 ) 科における調査結果の分析

内容別結果の分析	1 学年：11 内容のうち 7 内容で目標値を上回った。一方、「少数・分数の計算」で目標値と差が大きく課題が残った。 2 学年：8 内容の全てにおいて目標値を上回った。「計算の復習」の目標値と校内正答率の差が一番少なかった。 3 学年：8 内容のうち 6 内容で目標値を上回った。一方、「データの分析」で 11.3 ポイント、「証明」で 0.9 ポイント下回り課題が残った。
観点別結果の分析	1 学年：「知識・技能」の観点で 0.7 ポイント目標値を下回ったが、残りの 2 観点は 1 ポイント以上目標値を上回った。 2 学年：すべての観点で 9 ポイント以上目標値を上回った。 3 学年：すべての観点で目標値を上回ったが、「思考力・判断力・表現力」は 1 ポイント差だった。

### 調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 学年：「少数・分数の計算」に課題が見られるので、ステップ学習や学びポケットを活用し、個々に応じた計算力を補う。また、「比と比例・反比例」においても目標値を下回っているので電子黒板を使い視覚に訴える授業を行う。
- 2 学年：比較的に全範囲で基礎学力が定着しているため、電子黒板を使い視覚に訴える授業を行うとともに、ステップ学習のチャレンジプリント等を活用し、より発展的な内容にも取り組んでいく。
- 3 学年：「資料の活用」領域に課題が見られるので、ステップ学習を活用し補っていくとともに、他のプリント教材も使い、反復練習をすることで問題に慣れさせる。

### ( 数 学 ) 科の授業改善策

- 1, 2 学年：基礎基本の定着を基盤とし、苦手な領域に関しては、電子黒板を活用するなど視覚に訴える授業を展開する。また、ステップ学習や学びポケットを用いて、個々の能力に応じて学習を行い基礎の定着から発展的な問題まで取り組ませる。
- 3 学年：基礎基本の定着を基盤とし、発展クラスを中心にステップ学習のチャレンジプリント等を活用し、より発展的な内容にも取り組むことで、更なる学力向上を目指していく。  
苦手な領域に関しては他のプリント教材も使い、反復練習をする。

